

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	千葉市療育センターすぎのこルーム		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(医療型) 20人 (児発) 29人	(回答者数) (医療型) 19人 (児発) 26人
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援	多職種(保育士、指導員、PT、OT、看護師等)等が連携し、一人ひとりに応じた支援	他施設の見学や外部研修等に参加し、スキルアップを図っている
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して、家族支援プログラム(保護者が子どもの障害特性やその特性を踏まえた子どもへの関わり等を学ぶ)や家族等も参加出来る研修会や情報提供等を行っている	保護者が子どもと適切に関わるための支援や保護者ニーズに基づく勉強会や情報提供を行っている	外部研修会に参加し、子どもへの関わり方や子育てに必要な情報を職員間で共有する
3	活動プログラムの固定化しないように工夫している。	職員間で活動プログラムに際して、意見交換などを行いながら立案している	外部研修会などで、新たな療育内容や工夫などを学ぶ職員間で共有する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園との交流やその他の地域で他の子どもと活動する機会がない	移転中の為、交流保育は中止している。	・移転中は地域の公園や散歩等に出掛け、地域と交流出来る場を設定していく ・移転後(令和8年4月～)は、地域の保育所との交流保育を再開する予定である
2	兄弟向けのイベントの開催や交流の機会が少ない	医療型児童発達支援センターでは、運動会で兄弟競技を実施している。また通園児の兄弟が学校等長期休みの際は、兄弟預かりを行っているが、兄弟だけのイベントについては実施出来ない。	・兄弟預かりについては、長期休みだけでなく通常療育も預かりが出来るように改善していく。 ・兄弟向けのイベントについては、R8年度より実施出来るように検討していく。
3	通園バスの送迎について(児童発達支援事業利用児について)	すぎのこルームには通園バスが1台(医療型児童発達支援センターの利用児向け)の為、児童発達支援事業の利用児には送迎サービスが出来ていなかったが移転中は、療育時間の開始時間と終了時間に合わせて、JR蘇我駅と末広の仮施設間をやまびこルームの通園バスに同乗させていただいている	移転後も通園バスの送迎サービスが実施出来るように検討していく